

～びぶりおてーく～

図書委員会役員が
紹介する

私のおすすめ本

～ 図書館に“おすすめ本”コーナーあります ～



委員長 (3年)

『 よこそ実力至上主義の教室へ 』 衣笠彰梧：著

問い「人は平等であるか否か」。答えは否。人は不平等なもの、対等な関係など存在しない。福沢諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という言葉があるが、この有名な一節には続きがあることをご存じだろうか？続きを要約すると「人は生まれたときは皆平等だが徐々に違いができてしまう。」「それは学問に励んだか励まなかったか」である。



生徒の全てを学力で計る、高度育成高等学校に問題児揃いの D クラスに配属された主人公綾小路清隆が、A クラスを目指すクラスメート堀北鈴音に協力することになり、学校の様々な試験をこなしていく物語である。サスペンス要素強めなため頭脳戦が好きな方にお勧めだ。

副委員長 (3年)

『 ストロベリーナイト 』 誉田哲也：著

私がおすすめする本は『ストロベリーナイト』です。

次々に起こる殺人事件の捜査上に“ストロベリーナイト”という謎の言葉が浮上する。この言葉が意味するのは一体なんなのだろうか…。

こんな感じの読み応えのあるミステリーです。ドラマ化もされているので、読書が苦手な人は映像で楽しむことができます。是非一度読んでみてください。



副委員長 (2年)

『 夜廻 (よまわり) 』 保坂歩：著

この本は大切な姉と愛犬を探すため、主人公がひとり夜の町をさまようお話です。

主人公が住む町には妙な噂があった。夜の町に出た子供がよまわりさんに連れ去られてしまうというものだ。その夜、主人公は消えてしまった姉と愛犬を探しに行った。街頭には人のような「なにか」が立っていた。形は人だが顔や声は人外そのもの。しかしその周りには動物のような「なにか」、もう形も定まっていなような「なにか」が多数いた。全ての「なにか」に共通しているのは明確な殺意である。

この本は、最愛の姉と愛犬を探す少女と、この町に潜むよまわりさんの秘密が、物語が進むにつれ解き明かされていくミステリー小説です。

副委員長 (1年)

『 **早朝始発の殺風景** 』 青崎有吾：著



この本は短編五作品を収めたミステリー小説です。千葉県横槍市を舞台に謎解きがされていきます。僕がこの本を読もうと思ったのは題名にひかれたからです。『早朝始発の殺風景』というタイトルから内容を予想するのはなかなか難しいと思います。始末の電車がやってきて「僕」が乗ると、そこには一人の乗客が。それは同じクラスの殺風景という女子。なぜ始発に乗っているのかを探るうちにさまざまな謎が明かされていきます。ミステリーが好きな人にぜひ読んで欲しい一冊です。

書記 (2年)

『 **転生したらスライムだった件** 』 伏瀬：著

私がみなさんにおすすめする本は、『転スラ』です。TV アニメが大ヒットし、異世界ものを普及させた作品です。

物語は、通り魔に刺されてしまったサラリーマンが最弱のモンスターであるスライムに転生してしまうところから始まります。そして彼は、異世界で平和で楽しく暮らせるようにスキルを駆使したり、仲間と協力したりしていきます。仲間との愉快的な日常や心情描写、戦闘シーンの描写が細かくて読みやすいため、小説はかなり分厚いけれどさらっと読めます。アニメでは取り上げられなかった話も多いため、この手の世界観やキャラクターが好きな人にぜひ読んでほしいです。

図書館に小説版全巻が入っているので、借りてみてください。



書記 (1年)

『 **月とコーヒー** 』 吉田篤弘：著

『月とコーヒー』。食がひとつのテーマとなった二十四話の短編集。ある話では、バナナとバナナが会議をしていたり、ある話では、どこかの星の恋の話が登場したり、この本には、地球では起こることのないファンシーな話が沢山詰まっている。ただ、物語は最後までつづられていない。「あれ、ここで終わり？」というような場面で物語は幕を閉じる。著者は、物語に思いを巡らせているうちに眠りにつくというのが理想だと言っている。あえて「ココ」で話を終わりにしているのだ。この本は、話を想像したり考えたりする事が好きな人にオススメする。ぜひ、皆さんの想像力で、物語を広げてみてはどうだろうか。

